

三回目のノーベル平和賞受賞を逃して

「憲法 9 条をノーベル平和賞に推す神戸の会」(略称 推す会)

2016 年 10 月 10 日

人類は何度同じ過ちを繰り返せばいいのか。安保法案、文民統制のたがが外れた自衛隊、若者たちの保守的ポピュリズムが日本列島を包んでいる。古代イスラエルでも、繰り返し武器をとり、平和な民の生活を踏みにじった教訓が聖書に書かれている。

2013 年 12 月に発足した「憲法 9 条をノーベル平和賞に推す神戸の会」(略称 推す会)は、3 度オスロの平和賞委員会から推薦について受理されてきた。水垣渉会長が三度目の正直と常任委員一同、2016 年 10 月 7 日、かたずをのんで発表を待ち望んだ。

司会を務める岩村義雄総主事がなぜ憲法 9 条が必要なのかを紹介した。水垣渉会長が記者会見に出席した記者や聴衆にあいさつをし、続いて、常任委員である家正治、村田充八、岡野彩子、勝村弘也が順番にアカデミックな視座から立憲主義、平和主義、戦争の危険性についてそれぞれが専門分野から発題をした。

奨学金など日本の学生たちは貧困に直面している。格差社会の貧しい家庭で育つ若者は、学歴、雇用状況、収入についてすべり台社会のアリ地獄から抜け出られない悲運に嘆息する。ひとしく生存するための権利がはなはだしく損なわれている。一方、オリンピックの国威発揚のメディア報道の偏りにより、勝利至上主義、成果主義、弱者切り捨てが当たり前の風潮がはびこっている。格差は排外主義を生み出している。神奈川県相模原市の生涯施設で元職員による襲撃事件に見られる優生思想は右翼ポピュリズムの萌芽と言える。1930 年代のドイツ国ヒットラーを待望したように強い政治家による劇場型を無批判に受け入れる若者たち。戦争体験がない今の日本の 8 割を占める層のゆらぎは国の進路を危うくする。不確実性がどんどん大きくなっている。富をもてる人ともてない人の両極化になり、国境がとりはられ、液状化している。宗教界、とりわけキリスト教会も例外ではない。リヴァイアサンとしての国家の前に沈黙している断面図が散見する。教会も多くの歴史的な弱さをもっている。否定の論理が消失しているからである。

参議院の改憲勢力が三分の二を超えた今、世論操作が着々と進んでいる。日本会議の女性組織である「憲法おしゃべりカフェ」は全国的に広がっている。ちなみに日本会議(全国 249 支部)はここ兵庫県では 7 つの支部がある。2014 年以降、「美しい日本の憲法をつくる国民の会」(櫻井よしこ共同代表)は国民の過半数、つまり憲法改正に必要な世論を作り上げる運動を広げようとしている。具体的には 1 千万の請願署名を初詣などを利用して、700 万ほど集めている。1 千万に達すれば、ひとりが二人を誘えば、3 千万人になり、目標の改憲運動を成就することになる。こうしたフロント組織に歯止めをかけるのが憲法 9 条を守る市民、学識者、全国にある 7500 近くの憲法 9 条の会である。

引き続き、「推す会」は、憲法 9 条がもつ世界の宝、人類の希望をセミナー、講座、出版物を通して発信していく。

「憲法 9 条をノーベル平和賞に推す神戸の会」(略称 推す会)

〒655-0049 神戸市垂水区狩口台 5-1-101

Tel : (078) 782-9697 Fax: (078) 784-2939

総主事 岩村義雄

E-mail: QYH05423@nifty.com



